

ミニ耕運機を使おう

富士ロビン「ラーニー耕運機」 体験レポート

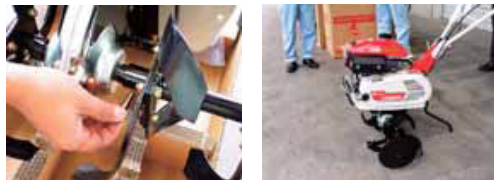
家庭菜園から小～中規模の畑に最適なサイズの農業機械、「ミニ耕運機」。オプションパーツを取り替えれば、畑の耕運やうね立て、草取りなどトータルで畑の面倒を見てくれる。

※こちらの商品は販売終了いたしました。
あらかじめご了承ください。

CR200の組み立て

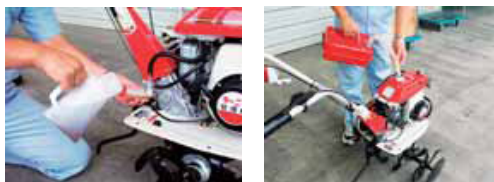
■ その1

「ラーニー耕運機 CR200」の本体重量は35kgと重いので、作業は2人で行うようにします。まず、段ボールの上で折りたたまれているハンドルを引き起こして固定します。角度を調整する穴が本体側に2ヶ所、ハンドル側に3ヶ所空いており、組み合わせしだいで6段階の角度に設定可能です。「ナタ爪仕様」と呼ばれる刃の付いたローターを取り付けますが、刃の向きによって「右用(R)」「左用(L)」の区別がされています。自分から見て「右(R)」と「左(L)」に、それぞれピンで本体に取り付けましょう。軸にはめ込み、金属製のピンを軸に空いた穴に入れて固定します。組み立てはピンのはめ込みがほとんどなので簡単に出来ました。



■ その2

CR200にはミッションの内部潤滑が目的のミッションオイル(=ギヤオイル)が0.8Lと、エンジンオイルが0.4Lついてきます。まず、付属のボトル容器に入ったミッションオイルを全てオイルポット(別売り)に入れ、ハンドルの付け根部分の注油口から入れれば完了です。オイルに気を付ければ機械の寿命も延びるので、定期的なメンテナンスを心がけましょう。次に、燃料である自動車用のガソリンを携行缶にいれて本体上の燃料給油口から燃料タンク(0.9L)に入れます。なお、オイルの種類と量は外箱に記載されているので確認しておいてください。



日常のメンテナンス

使用後はホースとブラシで水洗いして、タイヤの泥を良く落としましょう。エンジンが熱い時はしばらく冷ましてから、なおかつエンジンにできるだけ水がかからないように洗い、洗った後は乾いた布で拭きます。たいていの汚れはここで落とすことができます。そして、ローターにからまっている草などは故障の原因になるので丁寧に取りのぞきましょう。

長期格納前のメンテナンス

1ヶ月以上格納する場合は、以下のメンテナンスを行ってください。まず、ポンプを使って燃料タンク内のガソリンを抜き取ります。

気化器(キャブレター)のドレンプラグをドライバーなどを使ってゆるめる。



▲CR200の場合

燃料コックを「閉」の位置にする。



▲CR200の場合

なお、次のシーズンにはじめて使う際は各部の点検を念入りに行なってから運転するようにしましょう。

CR200の耕運作業

実験した場所は、常に耕されているので土質はかなり柔らかめ。そのため、スギナなどの雑草も多いですが、草に覆われた部分でもラクラクとCR200で耕せます。

硬い土の場合は、本体の後ろに下向きについている「抵抗棒」をグッと押し込んで下に沈ませる感覚にすると耕しやすいです。

今回のように柔らかな土の場合は逆に、抵抗棒を上浮かせる感じで操作します。作業中は腰を引かないような姿勢を維持します。上下にハンドルを動かし、耕運機自体が土に潜ったり浮いたりするような形で前進させます。

耕す時は、一度に耕そうとはしないで二度、三度と往復して作業するのがポイントです。また、耕した後は、土中の石や草がかき出されて露出します。邪魔であれば耕した後に取り除いておきましょう。



How To 情報

コメリドットコム「HowTo情報」には、DIY情報、住まいや暮らしに役立つノウハウが満載です。

